

令和7年度 木田まちづくりセンターの主な取組

事業名

【戦後80年】平和について考える～広島視察研修～

P

●事業実施に至った背景、目的

- ・戦後80年という節目の年を迎えるにあたり、戦争の悲惨さや平和の尊さについて木田地区として改めて考える機会を設ける。
- ・被爆体験を語る語り部の高齢化が進む中で、体験者ご本人から直接話を聴く機会を確保し、記憶と教訓を次世代へつなぐ。
- ・千羽鶴づくりを通して、広島視察に参加できない住民の平和への想いも形にし、地区全体の願いとして届ける。

●事業を実施するまでの過程(関係機関との打合せ等)

- ・イワミツアーへ広島平和記念公園視察を依頼。行程等について協議(8月～11月)。
- ・広島平和文化センターへ被爆体験講話(語り部)の派遣を依頼(9月)。
- ・地域団体「なでしこ会」に協力を依頼。高齢者サロンで折り鶴づくりを実施(9月)。

D

●事業の概要

12月に広島平和記念公園への視察研修を実施。事前に木田地区の住民が平和への想いを込めて作成した千羽鶴(2,000羽)を持参し、語り部の切明千枝子さんによる被爆体験講話を聴講した後、広島平和記念公園へ奉納した。あわせて、広島平和記念資料館を視察し、戦争の実相と平和の大切さについて改めて想いを寄せる機会とした。

【事業実施】広島視察研修：令和7年12月7日(日) 7:30～17:00/参加者：21名

C

●事業実施後の振り返り

- ・千羽鶴では、普段事業に参加できない方が、鶴を折って持ってきてくださるケースが多かった。
「もっと作りたい」という声もあり、折り鶴を1,000羽から2,000羽に増やした。
→「家で作る作業であれば協力できる」
「広島へは行けないけれど想いは届けてほしい」
- ・語り部で最高齢の切明千枝子さん(96歳)。15歳のときに被爆されており、その時の情景や周囲に起こったことなどについての説明が深く胸に残るものだった。
→アンケートでも「直接聞けてよかった」「言葉の重みを感じた」などの声が多く寄せられた。

A

●今後の方向性

- ・伝承の意義と、想いを伝える言葉の力を改めて実感した。今後の伝承活動においても、伝え手の想いを尊重し、伝えたい内容を明確に共有してから進めていきたい。
- ・会場へ足を運ぶことが難しい住民にも参加していただけるよう工夫する。

広島視察研修

【事前取組】 千羽鶴づくり



切明千枝子さん【語り部】
今もたくさんの遺骨が埋まっているんですよ。広島を歩くときは、(心の中で)手をあわせてくださいね。

